

2020年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：経営分析論特論	
担当教員名：落合孝彦	
<p>授業科目概要：</p> <p>本科目では、分析対象を上場企業に絞りこみ、これを通じて財務理論の理解を促すことに重きを置くため、財務理論の解説を出発点とし、企業の財務政策の状況及び財務に関わる現代的トピックを紹介しつつ、企業財務をめぐる課題について共に考えていく形で授業が構成されます。</p> <p>よって前半は基礎知識の習得に重点を置き、後半は財務政策の理論を解説しつつその現状と課題について共通理解を深め、検討する形式をとります。</p>	
履修上の留意事項：	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 財務に関する知識として、学部レベルの素養がなければ理解は難しい。 2. 授業の後半においては、報告やレポート提出を課すこともありうる。 	
教科書・参考書（参考文献）	
書名：グラフィック経営財務 著者／編者：境睦・落合孝彦 出版社：新世社 出版年：2019年	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
<p>評価方法及び判定基準：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席、質疑応答、報告、課題提出等を総合的に判断して評価する。 ●評価スケールは次のとおりである。 <p>A評価：80点以上 B評価：80点未満～70点以上 C評価：70点未満～60点以上 F評価：60点未満</p>	
<p>授業目標及び進め方：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回の授業については、担当教員による授業の方針・概要の説明が中心となる。 ●第2回以降については、原則として①担当教員による説明、②質疑応答の手順で進められるが、受講生による報告／課題提出等も数回予定している。 	

第1回	<p>テーマ：イントロダクション</p> <p>内容：経営財務の意味と役割</p> <p>教科書：第1章</p>
第2回	<p>テーマ：収益性分析</p> <p>内容：ROEの2指標分解、ROAの2指標分解</p> <p>教科書：第2章</p>
第3回	<p>テーマ：CF計算書</p> <p>内容：CF計算の成立と意義、企業倒産とCF計算書</p> <p>教科書：第3章</p>
第4回	<p>テーマ：投資の評価方法</p> <p>内容：現在価値法、正味現在価値法、内部収益率法</p> <p>教科書：第4章</p>
第5回	<p>テーマ：債券価値の評価と配当割引モデル</p> <p>内容：割引債、利付債、格付け、配当割引モデル</p> <p>教科書：第5章</p>
第6回	<p>テーマ：企業価値評価1</p> <p>内容：PER、PBR、ROE、ROA、シンプルq</p> <p>教科書：第6章</p>
第7回	<p>テーマ：企業価値評価2</p> <p>内容：割引CF法、事業価値の評価</p> <p>教科書：第6章</p>
第8回	<p>テーマ：ポートフォリオ理論と資本コスト1</p> <p>内容：2証券のリスクとリターン</p> <p>教科書：第7章</p>
第9回	<p>テーマ：ポートフォリオ理論と資本コスト2</p> <p>内容：市場リスクと個別リスク</p> <p>教科書：第7章</p>
第10回	<p>テーマ：ポートフォリオ理論と資本コスト3</p> <p>内容：証券特性線とCAPM</p> <p>教科書：第7章</p>
第11回	<p>テーマ：最適資本構成1</p> <p>内容：完全市場と不完全市場の最適資本構成</p> <p>教科書：第8章</p>
第12回	<p>テーマ：最適資本構成2</p> <p>内容：倒産リスクと最適資本構成、エージェンシー理論</p> <p>教科書：第8章、第10章</p>
第13回	<p>テーマ：配当政策と自社株買い</p> <p>内容：配当政策の理論と現実</p> <p>教科書：第9章</p>
第14回	<p>テーマ：コーポレートガバナンス・コードとスチュワードシップ・コード</p> <p>内容：</p> <p>教科書：第11章、第12章</p>
第15回	<p>テーマ：まとめ</p> <p>内容：総復習</p> <p>教科書：第1章から第12章</p>